



愛川ふれあいの村5月の風景

平成26年 5月 自然のたより

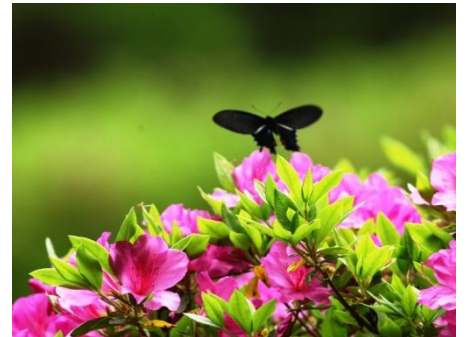
5月に入り、木々の葉が勢い良く茂って村内は緑一色になりました。青空の多い日も続いて日差しも強くなり、いよいよ夏らしくなってきました。中でも村の鳥たちは子育ての時期に入り、親鳥はヒナたちに与えるエサを捕っては巣に戻っています。元気なヒナたちのために、忙しく村内を飛び回っていました。



ニホンリスの後ろ姿



ヤザクラの枝にとまるシジュウカラ



ツツジに飛んでくるオナガアゲハ



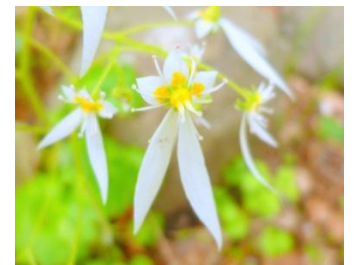
イカリソウ



ヤマツツジ



シャガの花とワカバグモ



ハルユキノシタ



遠くを眺めているヒトリ



ハルジオン



アカハネムシ



キランソウ



ミヤコワスレとコロギス



ハナバチにとまるハナバチ



オニタビラコ



ナルコユリ

★鳥たちの子育て★

事務所前の巣箱でスズメが子育てをしています。

5月第3週目は「愛鳥週間」でした。暖かくなり昆虫が多く出てくる頃、スズメの親鳥が子育てにいそしんでいました。事務所前の木にある巣箱に親鳥がやってきました。スズメは民家の近くに巣を作り、カラスやヘビなどの外敵から身を守ります。巣箱前で待っていると出入り口で親鳥が周りを見渡し、警戒している様子も見られました。

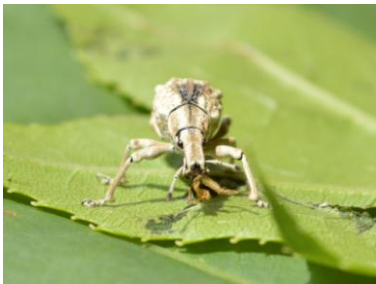
ヒナの姿はなかなか見ることができませんが、巣箱の下に行くと「ピーピー」と元気な声がしています。5月から6月にかけて鳥の子育てを身近に見ることができますので、鳥たちを刺激しないように静かに観察してみたいかたがでしょうか。



★ヒメシロコブゾウムシ★

鯉のぼりが泳いでいた5月初旬の愛川ふれあいの村。鯉のぼりがハリギリの木に引っ掛からないように枝を切った時、葉っぱの間から白い昆虫が出てきました。調べてみると「ヒメシロコブゾウムシ」。「ゾウ」と聞くと鼻が長いゾウを思い浮かべます。その「ゾウの鼻」に見立てて「ゾウムシ」と名付けられたそうですが、実は鼻として機能しているのではなく、「口」(こうらん)なので、ゾウムシの口は食べ物を食べるだけでなく、木の実に穴をあけ、産卵をするための器官にもなっています。口で穴をあけ、実の中に卵を産みつけます。ヒメシロコブゾウムシの口は進化の過程で退化したと考えられており、他のゾウムシよりも口が短いのです。

ヒメシロコブゾウムシは小さい顔とつぶらな瞳をした愛嬌のある顔が特徴なので、見付けたらそっと観察をしてみてくださいね。



▲可愛い顔のヒメシロコブゾウムシ



▲横から見たヒメシロコブゾウムシ



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・葉青芳・大瀧裕基子

文章：葉青芳・大瀧裕基子

漫画・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村
で、検索★

